

苫東環境コモンズの
活動をまとめて報告

haskap

NEWS LETTER

～コモンズの現地から発信する～

勇払原野のSPIRIT

コモンズの視線

ニュースレター22号をお届けします。このレターは「勇払原野の spirit」という長い妙な名前ですが、これまでこのタイトルに近いニュースはほとんどなかったかと思います。しかし、今号で紹介する苫東内のヒグマの出没を契機に、勇払原野の魂みたいなもの、平たく言えば風土の原点のようなものが連想されます。苫東は樽前、ウトナイ方向から柏原、そして厚真、穂別に続くヒグマの移動経路で、その苫東内メインルートが近年はメガソーラーのネットフェンスで分断されているのです。ヒグマらはおそらく有人で塀なしのアイシン精機あたりを通り、無人だが広大なメガソーラーのネットを避けながら南北のネット縁かヤード中央に残された細い林道を通り、迷っていることでしょう。苫東はよくも悪くも、期せずしてヒトのコモンズであったと同時にヒグマなど野生鳥獣の歴史的コモンズでもあった、それがかなり濃厚に匂った30年上半期でした。以下、簡単に5月以降の活動の足取りをまとめて報告します。

(事務局・草苺健) NPOの新しいホームページのアドレス <http://hayashi-kokoro.com/commons00.html>

TOPIC 1

大島山林の保育の薪を「雑木薪」と命名



大島山林の広葉樹を間伐し伐り透かしながら、山林を散策するフットパスを巡らす保育活動は今季も順調に展開しています。昨年11月11日に始まり今年7月22日まで保育活動に従事した会員は延べ296人でした。

木という物は切って林に捨てれば腐ってしまうのですが、適当な長さに切って、運んで、割って、積んで、乾燥させれば立派な薪になります。手間暇のかかったこの薪は、ナラも白樺も桜も交じった雑木林産100%で、市販の「広葉樹ミックス」(広葉樹からナラを抜いたものとの説有り)とは違うようなので、「雑木薪」といささか胸を張って呼ぶことにしています。

異形の薪、やや腐れの入ったもの、寸法外のものも交じる、まだまだ素人の薪もありますが、それでもいいという薪会員を中心に需要も多い状況です。

TOPIC 2

造園的な森づくりを研修 (6/2～6/3)



平成30年度の森づくり研修は道南の「静寂の郷」と銀婚湯の庭園をモデルに、美しい造園的な配慮の森づくりを見ました。前者は外山造園の外山正幸さんが講師(写真)で、エネルギーギッシュで不屈のスーパー庭師。池作り、石組み、温泉掘り、別荘づくりまでのパワフルなフルセットに圧倒されました。

銀婚湯では各自散策と露天風呂を堪能しての夕食後、先代社長の川口忠勝さんに約1時間、夢と苦労話をうかがいました。

翌日は黒松内のブナセンターを訪問し、斎藤均学芸員にブナにまつわる博物学的なエピソードをふんだんにお聞きしました。

TOPIC 3

ヒグマ出没につきフットパス閉鎖



冒頭のリードでも書きましたが、今年の苫東は連休前からヒグマの目撃情報が相次ぎ(写真左)、6月23日にはついに育林コンベの看板わきの林道の水たまりに写真右のような足跡もくっきり残されました。昨年のお盆ころには小屋の南で会員が遭遇していますから、ヒグマは常に活動のそばにいると考えるべきでしょう。少なくとも6,7月はヒグマが付近にいることは明らかなので、柏原フットパスの刈り払い作業と利用は取りやめ、静川小屋周辺も一応積極的利用は抑えて、この夏の活動拠点を大島山林に絞ることとしました。

このような高頻度の目撃がメガソーラーによるコリドーの攪乱とどのように関係があるのか、ないのか不明ですが、注意深く見守る必要があります。

TOPIC 4

雑木林の萌芽状況調査を受託

6月、土地のオーナーである(株)苫東さんから表記の内容の調査業務を委託されました。NPOの定款にある調査研究と環境保全の両事業に密接に関係する願ってもない依頼で、目下のところ oyama 会員と kusakari 会員が野外調査を終え、8月上旬、シカの食害を防止する電気柵試験をセットして観察に入ります。



柏原の間伐跡地の調査は、モザイク状皆伐とほだ木を採取する間伐など、条件ごとに興味深い結果が得られつつあります。成果は、メンテナンスフリーの緑地管理、ひいてはNPOが提唱する「苫東方式の近自然森づくりと利用」に直結する可能性が大。

また、大島山林の萌芽試験地約 1,000 m²は、伐木、運材、枝片付けが膨大な作業量だったため、今季はほかの作業が大幅に遅れる一方、例年よりかなり多い薪材が出ました。



現地は7月から旺盛に萌芽が始まり(写真上)一部はウサギと思われる食害にあっているため、電気柵の敷設を急ぐ予定。

TOPIC 5

ハスカップ市民史『ハスカップとわたし』の進捗前号で「雑木薪でハスカップ市民史の本を出そう」という予報をいたしましたので、その後の経過をご報告しますと、編集は今のところ順調に進んでおり、未着校正原稿が届き次第、一挙に修正し画像等を準備して原稿を出版元に提出する予定です。

出版元は道内中堅のN社で、概要が固まるのを待って、企画書を持って苫小牧市内の関係者に出版計画の紹介とご挨拶に回る予定です。出版部数は1000部、価格は1500円程度、発刊は年度内になる見込みです。

ちなみに今年ハスカップ摘みは7月15日につた森山林で行われました。実成りはよかったです。過熟状態になるのが早く、採る前に落ちたものも多いようです。ハスカップ摘みイベントの前日に企業のハスカップ摘みが行われたため、収穫が難しかったよう

ですが、それでも原野の採取に比べれば天国。午前中の2時間余りで3kgほど採った人も数人いました。



30年5月以降の主な活動

*行事末尾の数字は参加者数

- 5/03 大島山林の保育間伐 ㉔ " +薪運搬(新札幌+江別) 8
- 5/05 " ㉕ " +薪運搬(江別と静川の小屋) 9
- 5/12 大島山林の保育間伐㉔シリーズ 薪割りと薪積み 10
- 5/20 大島山林の保育間伐 29 リーズ 薪割り薪積み、集材・玉切り 4
- 5/26 大島山林の保育間伐㉔シリーズ 薪割り薪積み、集材は完了 6
- 6/2 & 3 森づくり研修(八雲&黒松内) 9
- 6/09 大島山林の保育間伐 31 シリーズ 薪割り薪積み+玉切り+刈り払い 8
- 6/16 玉切り、薪割り、薪積み+フットパスの刈り払い 7
- 6/18 柏原受託調査(1) oyama, kusa+3
- 6/23 玉切りと薪割りを第一段階完了、薪積み全員で 10
- 6/30 薪積み 8
- 7/09 柏原調査(2)5
- 7/14 静川のフットパス刈り払い 1
- 7/15 ハスカップ摘み 22
- 7/18 柏原調査(3) 5
- 7/21 萌芽試験地の薪割り 4
- 7/22 " 1
- 7/27 " "
- 8/4 " + シカ食害防止用電気柵設置

////////// 編集後記 //////////

■ 葛森春明さんの父・百一さんが静川一帯を買ったとき、すでにはげ山で切り株が1m以上の高さで残っていたらしいのですが、それがなぜなのか、謎でした。開拓の写真を見ていてその謎がやっと解けました。長い幹は馬で抜根するのに不可欠で、かつ根が腐るよう5年ほど放置してから抜いたのだそうです。高さ1mの切り株はきつとその抜き忘れ。40年ぶりの解決です。■ 昨秋、急に思いついて自宅を薪ストーブにしました。急ごしらえで薪を集めたのですが2月中旬に無くなりました。今季は、薪小屋を新調して、7月末、1年分の薪2棚を2トントラックで運び入れ、翌日家内と新しい薪小屋に積み終わりました。毎朝、居間の窓からその薪を眺めて悦に入りますが、自分で切って集めて割ったものと思えば、不思議な気がします。そして頭をめぐるのが「いつまでできるのか」。予想以上の手間と重労働ですが、スローライフを楽しもうと思えばつらくない。家庭菜園はもっと大変とか。(草苺)

お問い合わせ

NPO 法人苫東環境コモンズ 事務局
草苺 kt-884-556@nifty.com
携帯 090-6999-2765